

琉球・沖縄
年中行事

？なんでも！
Q&A

清明祭のお花に、バラは？



●Answer
沖縄市・コザ山 球陽寺 前任職
帰依 龍照 (きえりゅうしょう)

Q シーミーのお花にバラを使ったら、遠い親戚のおばさんに大きな声で叱られ、人前で涙が出ました。亡くなった母が好きだったので、どうしたらいいのでしょうか？ (M町Tさん)

A Tさん、お母さんはバラの花が好きだったのですね。ご安心ください、一緒に解決策を考えていきましょう。まずは、清明祭のことから勉強していきましょう。清明祭とは、中国・二十四節氣の二つ、清明節(三月節)に由来します。昔の中国では、旧暦3月頃、ご先祖のお墓に一族が出向き、清掃をしていたのだそうです。そのことから清明節のことを掃墓節(そうぼせつ)と言うこともあります。旧暦3月は、新暦4月頃が多く、清明祭は4月の印象を受けますが、年によれば、旧暦3月は、翌月にまたがることもありますので、5月・ゴールデンウィークに清明祭を行うご家庭もあるというわけです。現在、お墓の清掃(掃墓)は、旧暦7月7日・七夕の代名詞となり、清明祭は家族・親族の交流を中心とする年中行事に変わりつつあります。沖縄の史記『球陽』には、中国・掃墓節(清明祭)が、尚穆王(しょうぼくおう)17年(1768年)頃、首里の士族に伝わったとの記述があります。この経緯から、清明祭は離島にあまり普及せず、首里・本島を中心とする年中行事になったといえます。現在でも、離島では清明祭より十

六日祭(ジュールクニチー)を中心とするご家庭が多いのは、このような理由からだといわれています。清明祭には、門中(ムンチュウ)・宗家(ムトウヤ)の清明祭である神御清明祭(カミウシミミー)と、家族・親族の清明祭である御清明祭(ウシミミー)があります。神御清明祭は、新暦4月上旬から中旬にかけて、御清明祭は、新暦4月中旬から下旬にかけて行われることが多いといえます。清明祭は、清明(せいめい)・シーミーという表現で間違いありませんが、儀式・法要では、御清明(おんせいめい)・ウシミミーという御(ウ)の敬語をつける表現が丁寧であるといわれています。

供華・献花について

清明祭などの年中行事・お葬式・ご法事などの生花には、大別して供華(きょうか)・くげ)・献花(けんか)の分類があります。

供華とは、全体的に供(そな)える花という意味があり、大切な祭壇・お仏壇・お墓に荘厳(しょうげん)・お飾り(お飾り)する生花のことをいいます。花瓶(かびん)の生花、お葬式の親族・会社の生花などが、この供華に該当します(但し花瓶の生花は、供華に該当しないという考え方もあります)。供華の特徴は、宗教・宗派に関連することが多いといえます。一例を申し上げますと、
◎造花の使用を遠慮する
◎とげ・根のある花の使用

を遠慮する
◎毒のある花の使用を遠慮する
などがあります。

一方、献花には個人的にささげる花という意味があり、大切な故人さまに手向(たむ)ける生花のことをいいます。輪花(いちりんか)の生花・花束の生花などが、この献花に該当します(焼香の代用である、キリスト教・無宗教の生花以外は、献花に該当しないという考え方もあります)。献花の特徴は、宗教・宗派に関連しないことが多いといわれます。一例を申し上げますと、
◎白色の花を使用する(現在では、色彩にとらわれない考え方もあります)
◎ユリ・菊・カーネーションなどの花を使用する
◎故人をしのぶ花を使用する
などがあります

供華と献花を併用する

供華や献花の拡大解釈として、遠い親戚のおばさんのおつしやる、バラの花をお供えないという助言は、棘(とげ)のある花をお供えないという供華の考え方に通じるといえるでしょう。また、Tさんのおつしやる、バラの花をささげたいという親孝行のお気持ちは、故人をしのび好きだった花をささげるといふ献花の考え方に通じるといえます。今回のご相談の回答としては、お墓での清明祭の際の花瓶には、一般的な生花(供華)を使用して、お子さんやお孫さんたちは、供華とは別

にお母さん・おばあちゃんのお好きだったバラの花束(献花)を使用されてはいいかがでしょうか。つまり、双方の考え方を尊重して、お供えする・ささげるといふ、供華と献花の折衷案を併用するというわけですね。

叱るのは相手のため 怒るのは自分のため

修行中の頃、師匠から「叱るのは相手のため 怒るのは自分のため」という格言を指導いただきました。叱ってくれる人に出会えることは、人生の幸せであり、叱る人は、怒る人ではないということに、今更ながら気づく年齢になりました。清明祭とは、家族・親族間の交流をうながすという意味もあるのだとか。昨今は、褒める時代といわれますが、「褒めて育てる」も「叱って育てる」も、同じ愛情があるが故と理解できれば、遠い親戚のおばさんにも感謝できることと思えます。大好きなバラの花に囲まれたお母さんも、Tさんのことを頼もしく思われるかもしれませんね。

